

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	熊野町立熊野第四小学校	校長	元永 圭一	生徒指導主事	寺廻 志保
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『学校全体で人権意識を高める教育活動について』
-------	-------------------------

取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
他者理解・共感力	1	回復力	3	多様性に対する適応力	2

取組のねらい

児童が安全に安心して過ごすことができ、居心地がよいと感じられる学校、学級集団づくりを行う。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『キーワード 人権意識』
----------	-------------------------

<p>○学校全体における人権意識を高める教育活動について 特別活動（学級活動・学校行事など）における多様な集団活動を通して、支え合い、高め合う集団にしていけるよう、計画的に「学校全体で人権意識を高める教育活動」に取り組んだ。</p> <p>① 授業実践 毎日の授業（特に道徳）で人権意識を高める指導を行った。</p> <p>② 発生事案を活用した研修 生徒指導上発生した事案を教職員で情報共有し、研修を行った。</p> <p>③ 「新型コロナウイルス感染症～差別・偏見をなくそう～」の取組 新型コロナウイルス感染症に関連する差別や偏見について考え、児童が適切な行動をとることができるように取り組んだ。</p> <p>④ 「落ち着きプロジェクト」の取組 大休憩、昼休憩の終わりに教職員が、校内のポイントに立ち、「廊下・階段を歩く」「無言移動」「身だしなみ」などの呼びかけを行った。</p> <p>⑤ 「思いやりの樹を育てよう」の取組 「人の役に立つ行動、人を大切にする気持ちが伝わる行動や言葉、思いやりの気持ちが伝わる行動や言葉」などをシールに書き、全校に紹介した。</p>	<p>① 10月の参観日では、全学級で道徳の授業を行った。</p> <p>② 毎週金曜日を生徒指導夕会に位置づけ、情報を共有できるようにした。</p> <p>③ 動画・ワークシートなどを生徒指導部で用意し、それを使い全校で期間を決めて取組を行った。また、3学期になっても繰り返し指導を行った。</p> <p>④ 2学期から教職員に代わり6年生がポイントに立ち、全校に呼びかけることで、最高学年としての自覚にもつながった。</p> <p>⑤ 全校児童に見えやすい場所に掲示物を貼ることで、たくさんの児童が読んでいた。1回目の「〇〇を自分もやってみたい。」の振り返りをもとに、3学期にも「思いやりの木」の取組を行った。</p>
--	---



取組の成果と課題

○ 児童アンケート「この学級の一員でよかった」に肯定的回答をした児童が年間通して80%以上おり、安心して学級生活を送ることができ、学級に自分の居場所があると考えている児童が多かった。

○ 年間通して人権意識を高める様々な取組を行い、その都度、振り返りを行うことで、「人の役に立つこと」「相手の立場になって考えてみること」「学級みんなで取り組むこと」などを意識して行動している児童が多くみられた。

● 否定的な回答をした児童は5月18.0%、10月19.9%、2月18.4%で、居心地の良い学級集団と感じられていない児童が年間通してみられた。否定的な回答が増えた学級や安定した学級経営が難しい担任には、学校全体で組織的にその学級や担任を見守るために様々な職員と一緒に授業を行ったり、学級集団を見守ったりしたが、まだ十分でなかった。

● 2月の児童アンケートで否定的な回答をした児童は、低学年12名・中学年18名・高学年26名であった。自己肯定感が低い児童に否定的な回答が多かった。また、高学年になるにつれ、否定的な回答の児童が増えていた。特に、高学年で「この学級の一員でよかった」と思える取組、自己肯定感を高める取組を行っていく必要がある。